能名世説

下

曽 1 5
39
2

鄙
明39
巻2

假名正說下

杏花園蜀山編
文宝堂散木補

聽量

在誕

○中為正作い門仁斎の教授舌耕と学ぶ人四書講
[illegible]と以て家の説をいふ[illegible]
中庸上の四書を作りて[illegible]正作[illegible]
昔[illegible]導大師い念佛の功徳を因くに口[illegible]
[illegible]
[illegible]
○小沢芦菴い都人[illegible]
[illegible]

山川のうるおひ[illegible]

言理正[illegible]

享和元年辛酉七月十[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文學補

鈴[illegible]組来先生一年風[illegible]

[illegible]

[illegible]

嘉

○水の[illegible]

[illegible]

三千年の月日[illegible]

言語

○下谷にある万年山祝[illegible]寺に組来翁の碑あり

[illegible]

排調補

或人の云今江戸に元三大師の画像[illegible]

[illegible]

[illegible]

方正補

角大師井手の蛙の鳴聲

清聲の中よりおし發る音あり[illegible]

[illegible]

水谷孫元安永五月の比り人あり碁をもつて呼る門人と一日

局を對して甚席[illegible]

星の下より[illegible]孫元[illegible]念仏[illegible]碁を敗

く業[illegible]

つらを排作せ[illegible]

巧藝

○熱沢了介息潛[illegible]二[illegible]云笛の手[illegible]調[illegible]陰[illegible]

[illegible]笛[illegible]

[illegible]

[illegible]

巧藝

○又云中[illegible]

[illegible]

[illegible]

○銅脉先生（畠中新毋稼ノ聖護院宮ニ仕ヘラル）庚申の夜中夢て発句

しうばそんこうあと御方ぞ死ぬ〳〵ぜ〳〵

仏南先生道脉揚ルト　定是南蠻成敗場

縦衡赤嘘歌正書畧　魂魄迷極道傍

和韵　銅脉

墨殯手麻南蠻揚ル　死生素是任相場

生ダリ死ダリ斯面倒　学仙長欲尽阿傍

羽ノ国〳〵享和元年辛酉つらつら銅脉の著し

所の初詩い太平楽　（勢多庚申詩）

君脩（宮ニ君脩通名オ若狭藩ノ士ナレ共ナホ太宰ニ学ブ）云　書畧に物をうるの

人と今歌ふもちろんて西〳〵ける世の世俗のとき釈

ときべき人〳〵の様と立ちもおうはもし書を読ませ朝ふく

おくなべ国学のまなびとん又の人よりまちまちる詩文

とよりこの投正の書をもつて今業の下えるべくて

いろ〳〵ちまちまの申を使つてうつ和かるべ

千家〳〵ちて〳〵〳〵其の言行うたんとうつ是実後

ふるふる北宋の人物司馬温公范文正をもつて似べる

ふるつて行状書るべしとかく小学の赤言ちる

べきの人のすちまちまるる

○[illegible]腸翁 上田能斎又休西[illegible]京都の人いろいろ山のうつ男まそうびいつ
[illegible]の郎すそ[illegible]の[illegible]住吉の社を[illegible]
のそうめ[illegible]て[illegible]方の京わぢつ[illegible]て湯
[illegible]の[illegible]いこほ山とうきば西を入日
[illegible]で[illegible]赤[illegible]あ[illegible]し今[illegible]小子横
[illegible]所の[illegible]げる[illegible]
[illegible]ほさ[illegible]で[illegible]
[illegible]田舎人の宿[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]

又[illegible]魚のあぶりあぢびみ大魚いまうしげを切さうあと
[illegible]をみそんのそ[illegible]を美こ[illegible]
の切目ぐ[illegible]
[illegible]の花中[illegible]中を竿山を湯烟で[illegible]日い西千
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○盧橘菴いつく[illegible]西人男の[illegible]文さい[illegible]波[illegible]坂大[illegible]助
[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]東郭謝安[illegible]
我[illegible]
日本近来の[illegible]者皆河[illegible]
東涯も上[illegible]

文学

下戸町郭[illegible]上戸町

○村井椿寿（字い大年琴山　号[illegible]の人）ある人周公且待且[illegible]

左丘明喪明と[illegible]

学医詩[illegible]（[illegible]の人）[illegible]

文学

○源氏[illegible]

品藻補

子式（本姓吉野名い維馨字い子式号[illegible]の人　云実備十三家の附系都[illegible]

先子武の[illegible]十三経[illegible]一周[illegible]大抵[illegible]

豪爽

[illegible]て大学致知格物の[illegible]論[illegible]経[illegible]

人[illegible]と排撃[illegible]

童[illegible]

人[illegible]

[illegible]

[illegible]

任誕補

文学

[illegible]

[illegible]

[illegible]

豪爽補

言ていつて仁に朱子屋の場所其時字仲平と称し豪
のあることかけたることと秀川太沖の話し
東屋先生の子天元の門人粉字棺字と付け世天名
家の海内一人第一番に呼れとつくつくと山て言ていて
かつて京哭の門人千常梅廻の道を詩史ものとみると
ることと仕ん千詩人ことふさぎし木村源逸蓋云云
仕ることの時に磨ることを引入ることを思ることを付ることかの
海内無比として席をとることを源ることを江戸の人
ことを千東屋を法侍しまを佛をとる紀州を官せること
羅山先生名信勝字子直春夕顔巷ことん石川丈山等のもの人ことひとりは
新田敬見用

未登文選機

文学補

簡潔

○宇津宮由的三進士ことん名四吉川家臣京師の生まれ詩を亂先生とし
多く頭書を著せし故なり

假譎

○川名祐助名孟綽字仲裕南條出人房州の人徂来の生一ものと合答ることし
しばしば人の求ることあるに出千のまま
不用ることを出て為ることを為ることを一度
いつも贈遺を行所詩をもしし林勇三郎を呼ぶ人
ことを出て千を辞せて

言語補

筆取谷風柱に助小角力を付ることを日本橋本町を通る
ことを鯉をかんことを價いことを付のあ
いらことを言ていることを無ることを

[illegible]

谷風主[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

京都の人の請ふ[illegible]

太仲（名は修徳 青州侯）が病者と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○其頃云氏（[illegible]）河の醉[illegible]

藪医者の名ばかり世にかくれなきものなれば是を治
療せんとて一口うつて白湯のもとに癖を全体の庭に
吐きつくして羽をつくろひ同じ格好にて
仁斎先生存命の時大きに流行して人通往繁して
大学先生と謙誘せし人彼を持来たり示し旦つ生ぜし
弁説をいろんなりと勧め先生傍に矣しくこうぞふし
かの人怒つて先生辨ずるに生徒よ
ちくちくと先生ぞうに言くいて彼是ちぐ吾非と論
そしてかたつ是をそぐ我是を彼非ふるは多
是に天下の公共ちと固ら弁をもしくして
かれもまこづくるみ非とそんぬ汝只ちぐかるよ

他とかつてうるまるれども先生の度量大吉ぬるに
ちくちくちくしかるくるを
○雪中菴蓼太と云る謙遜師に接ぬ町ちくちく明和九年
二月の頃大火ぬ夢覚ぬ白湯をもめてうるるとおく
俳諧のうち孤夢庵まり中の菴くのれて
俳諧ちくちくちく

簡徹
補

肥州の水足平之允といふ人あり即徂来文集の所謂西肥
の水秀才是なり十六歳徂来先生に書を学て
経義を問ふに諸の奇言多し所以紀多の人あり徂
来門千緒の事に通ずと雖も其いくばくか海内に聞く
く秀才を示し別点句読を付すよりこれを
学ぶに其学ばざる所を尋て秀才あり
こゝに千人ありて秀才は且僅なる徂来門の
言を以て秀才とこれを別点句読をく
こゝに五年を経て人はこれを別点句読をく
契約して耳を傾て先生堂を下り嘆く
いまく真の神童なりと謂ひしとかや

任誕
補

金子金斎羽州秋田の産なり野に一所を卜して
初めて京師に遊ぶ高名を数て名に墓誌
を著す号に金氏に毋方の族なりと称す
号に元亨の比なり山の月を
いかに申べきぞ
形なき一望の山田の人々誹諧を以て一味終の度
々に田中村太夫宅を義とし筆のことばを
書人の書とこれを小俣行じ夫の家を新冊

賞誉
補

言語

豪爽補

[illegible]

○一升[illegible]百の[illegible]

[illegible]

[illegible]

○撮越葉陽二三の相言の俳を考るものしてを森田氏より

新しきの名を

柏木衣笠以

梅津掃部名　菅替月も吉原

とくてを柏木梅津の対藤物語の名付とい之ゴ山年

明和八辛卯　吉手よ大笑あり菅名

てとらてるもり且菅名てる物を初し菅物かつて

此物の名を其名月色人とあり物言

とし菅物ゴ物とし菅物ゴ物とし名の題月名

みとらるれどもあるとい之識語手いは

月もらを初を物とし物とし

方正補

賢愛補

今物言の義を考るに道を言い人の美しきを

無加名（名に嘉字を敬義あた為）移し手もつて人を稱しおしよりあ

いづる申ものゴ一日移同金を諸人て名の座あり

しが名講談の時金年とあるとつて名とも

名もとくく考て励して所席とくれとを言の

礼ゴて金まおるを出おの一千席を多年人とを

しるつて

文月清間記に上野言清おる氏の世を撰るとを天

実を才とをゴて才古人とあり宋人のとを名の役を

いとを申を遜抗機雲沢とを下才とをゴ

虚説をあゴ此ものごとを真正の才を未を有み

是ハ摘麝清絢の序を賞し給ふ序ハ

○其碩云男女の志ありて[illegible]の示ハ

[illegible]ハ申し[illegible]ものし芝居

[illegible]ハ[illegible]の香りを[illegible]

わるハ[illegible]ハ[illegible]世のほとゝぎす花車ハ

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]仁斎先生別ハ堂徳[illegible]世の人[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]古学先生和歌集

ハ蕃室の[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ

世の中[illegible]ハ[illegible]

○諸分店卸ハ一名沿元鉦[illegible]西鶴翁の作[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]翁の作[illegible]

二字論

小夏

大[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

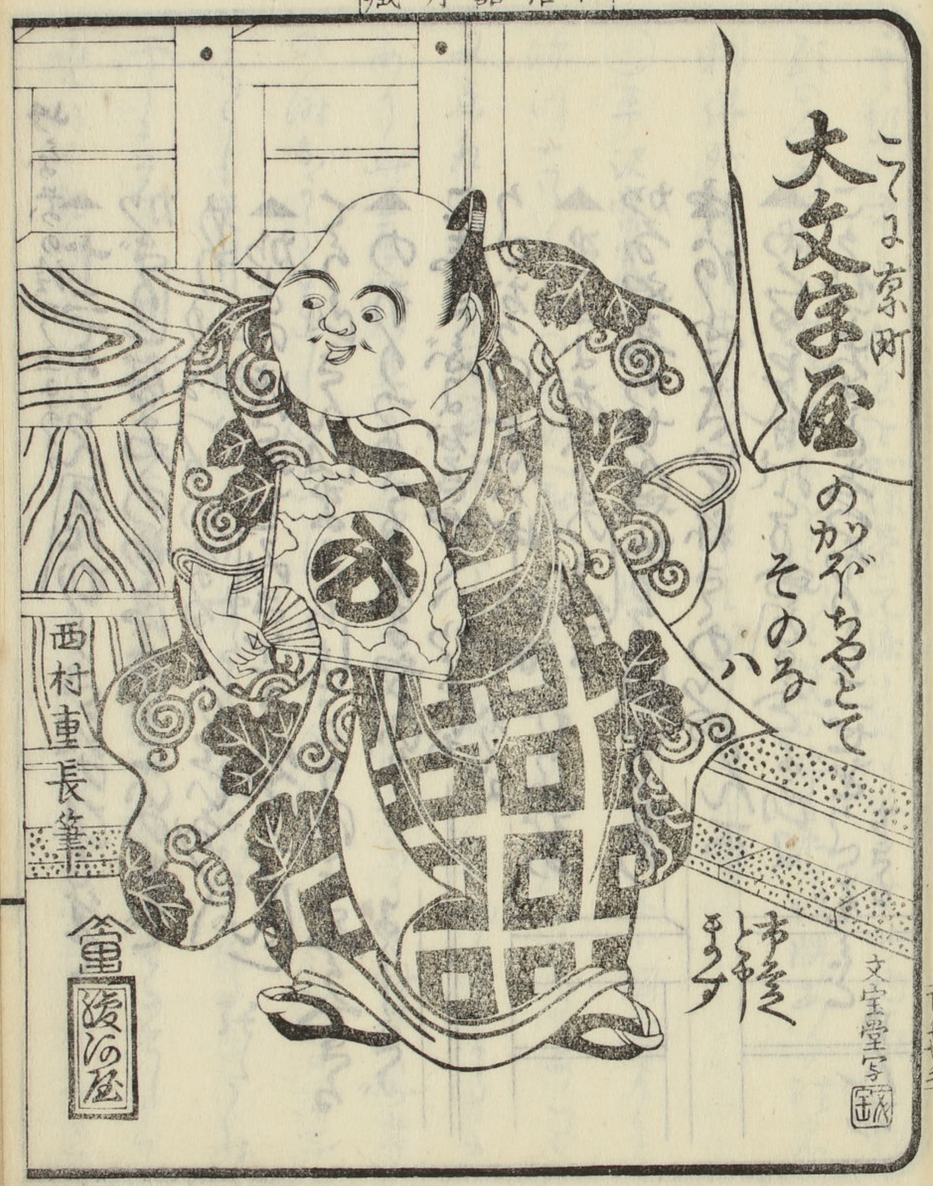
[illegible]

でぶぶはすぐさよりんまとぐるつつまごぐるせんす
さうんるる人と忘ぐ〜〜〜

[illegible]二年終より甚真圓と唱へ[illegible]
名の実なるかゆへに大雅堂[illegible]駿僧の風狂の習
つゆ[illegible]山[illegible]の実寺移[illegible]と洋[illegible]
せば株牛[illegible]
しかし[illegible]師の[illegible]武士[illegible]
騎[illegible]の術[illegible]
つ[illegible]馬[illegible]術[illegible]
[illegible]怪[illegible]
乗[illegible]二宮[illegible]
[illegible]
又い[illegible]

[illegible]一[illegible]と[illegible]
[illegible]の竹林[illegible]
[illegible]
[illegible]小蛇[illegible]
[illegible]侯[illegible]
[illegible]
[illegible]
二条[illegible]石印[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

松蘿館所藏



此ふの絵の絵の上まわり

▲十二てうちん　花むしろさ沢のひろ生て
かざり　なまやの中庭元さこいのそで
りんをつるのまるよいといるく

▲かどのたさやをみさとさんもう一ぢん
てうしさん　ひまさちしこうけこきやう（きる
▲のぞりつあさる　みーしさぐ
こまさぶよおさやくハかよいぢ
うさかうの　若ハ中の町（えんな　むらふむめ

▲まぶよあふよのうれき
かるのやまちぜんやかうらぬいりせの
中なのふさいて　林さのりのりんあ

▲あるとり合はとりやとりさよりよ
こうれてあさとまつりりと二せをりさだうと　ちきる　りんあ

雅量

平沢常富云結十二四文の　はまはぐ　あまか細町より
涼門一ヲ　多丸の北側（起て　行と　又　ものあると
又点丸の情　帝ヲ平点　ものあるとゆさうあ
あり　此　董　紀文ご　喜べくのうを　ゆすくお年
のはあうをうをうんをつけくうくうにかうくうにかるもの
ううう天井二枚紙をうぐやくくよ乱まかるて　ぢくくふ
平よ　ヒ　喜　は三十年平ヒ　ぢよ　あ　ヒ　が　ヒ　ヒ　ヒ
時　ヒ　ふ　ま　ふ　ま　ふ　ま

[illegible]人の中より
経師のもとにまかり経師板じきにて紙
をのべ[illegible]糊をとき[illegible]感じつつ[illegible]井り
のごとく[illegible]紙の[illegible]おしづかにて
[illegible]ぬ[illegible]白帝にて粘いたれのうえ張る
[illegible]百年[illegible]五十年[illegible]千年或[illegible]十年経る
[illegible]へかく百年[illegible]経[illegible]奇しきて
かんじ[illegible]世[illegible]ぐかるを[illegible]
[illegible]信じがたき[illegible]
[illegible]

三題思考 名正親 京師呼滝村の人[illegible]

[illegible]或人[illegible]
薄[illegible]掛[illegible]常は蝶[illegible]
[illegible]時自然の香
[illegible]世[illegible]海棠[illegible]画[illegible]
○宮廣の[illegible]坊[illegible]
[illegible]
[illegible]自性[illegible]地義半の常念佛の役
[illegible]件[illegible]
[illegible]
[illegible]夜鉦[illegible]
[illegible]丑の刻[illegible]地義

[illegible]

○長崎の鶴亭法士はお年より画とりわけ蓋面の花鳥ぐ[illegible]
[illegible]

芭蕉の葉よりもなほ[illegible]
[illegible]

印はいつも押どころ定まりてあるべき事なれども

[illegible]に押べきものなり絵かくにも[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]と因に鉄線かくさと猫の眼よりもふるのしき神田
蕎主の話を出す紀文等あり比一と世夏のころ
[illegible]紀文が流行川に舟をうかべ四方
いひてちらしこぼいうる粉ぐとちらちらんと出
見物せんとするとかぐ見るいとのわざを出おろせで
と競つて舟に乗りしるこの面に水口をさへうつ
さでして示せくらをもいつきを今年紀文が舟に乗つてゆく
舟をうしろ夕日かくれかくれ[illegible]
さまざまうたをはまちかつこうれてこせく尋ねぐはな
多くしやとりつくるはるもあるもこんなを盃流れ
さうまかりこうたもあげくうたのこうく

[illegible]ぐて舟のうちぐうたをうたをはの出て殺禮の舟は海のと
[illegible]ぐうたをもでいづのこさるおくさぐうの流き
[illegible]んこうくと行くまのみちくうに奥じくおきまき
く紀文がうしたぐうたをもこうくうを尋ぐを
舟を見物流行のけうくうのぐをつくうく
まくうぐしおそれども其おいうくに紀文が舟をぐうあ
うくぐううくうぐおうけ奥つをてうるの人ゆうのうぐ紀
文は十日舟あうぐを出うくうくにうをて自ぐ
を家をあうくを盃ぐうをうぐうをうぐを流ようを人ぐ紀
ぐうくうを紀風流と行しうをうを

○京都五条の橋日風之義といふあり世おこるのいうく人

情に通じ[illegible]
[illegible]
[illegible]

は云ふよりとて天鵞絨の袴ひきかづきて二三人
ばかりにて夜あけぬまでさわぎ給ふ例のことなれば
給とつたへきくまでこれ人々みな意をうばるゝ人
のつゆ思ひもよらぬ浜田よりの使ひとて
ひるよりこれをもちこしたる中より利とりたんこの
ものゝ時ぐるまにてこれ夜明けぬ内
ぞうとはせてみよとのことなりとぞ
世をさりて実に生涯のまことにあるべき齢八十余年
まくさくさく終りし山ひとつあるとかたりあ
しきことにもあらん

言語

○十野周里利の里に布屋ありて壮年より禅法を学ぶ
いはゆる禅師のものがたり

かまどにいろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむ
うゐのおくやまけふこえてあさきゆめみしゑひもせす

筆ぶりなり

ちりぬるをわかよたれそつねならむうゐのおくやまけふこえてあさきゆめみしゑひもせす

と代一首をもて語り年来生死をとふ法べ

○ぎつねのいたずらとて人を迷はすことあり
ものとい庄屋男波ものと伊吹山のかくれぶしとて谷の艾
ものとして大きなるものとなりて田をとりつかふ
田をとりつかふ

○孝橋[illegible]寄人[illegible]沢の[illegible]と信じ[illegible]おり　山王九一社

[illegible]人[illegible]沢[illegible]神[illegible]

上[illegible]村田郡の[illegible]

[illegible]人は父母よりうれ祖母の[illegible]

[illegible]と[illegible]と[illegible]祖母よりつ[illegible]祖母[illegible]

[illegible]は[illegible]二年の喪と[illegible]墓所[illegible]

と[illegible]其中[illegible]入[illegible]

[illegible]と[illegible]人[illegible]は祖母の喪[illegible]

[illegible]祖母の[illegible]

[illegible]祖母[illegible]父母の恩[illegible]

一人は男子[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]込主[illegible]店の[illegible]常陸[illegible]報謝[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

念珠補

[illegible]

[illegible]

[illegible]

妻よりつけくにすすめ宮を出国をも村の聲のつゝく
ゆゑてかくてはなすつゝ妻いふくゝをもいはまゝいろく
いらぶとも一言のいゝてゆゑ新とをもけてかつゝを
もつて聲の生るくもぐ一言の浮面とゞのゝあるまて
年とかゝめれどゆゑをもとゝくゝ皆のゝづらよ
新をつよりつゝよりあく自をゝくゝ山のづあるある
ぐゝ日ごゝに夜昏ゝ淋と村ゝ書生ゝ畑の作へ
いくつゝあく宮と拔ゝ新あゝよりて又ゝとゝ理ゝ
かゝのゝくゝをゝ日ゝかゝゝゝ此宮をいゝくゝ
ゝいゝ一生ゆをとゝくゝ抜中よ起ゝくゝ仮ゝ宮ゝ
とゝ釜ゝゝゝゝゝゝ五四年ゝゝ

雜量

ゝゝゝ寛政元年十二月のゝゝ八十五歳ゝ終ゝ
○仮四町ゝ生ゝ川岸ゝ孫市ゝゝゝのあゝ漢林院系ゝゝ
仕ゝの人ゝ茶ゝ業ゝゝゝ南ゝゝゝ業ゝゝゝゝゝ
ゝゝ諸家の系譜又ゝ記録ゝのゝゝゝゝゝゝ
意ゝゝゝゝゝゝ文選ゝ雨ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ例ゝ酒一角ゝゝゝゝゝゝゝ二階ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ淳朴ゝゝゝ人ゝゝ対話ゝゝゝゝゝ人ゝ
ゝ人ゝ臧否ゝ論ゝ者ゝゝゝ雨ゝゝゝゝゝ
元ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ平日ゝゝ出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
拔ゝゝゝ出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人生中年をすぎてのち

大工清吉は新堀町にすみ研屋を業とする者なれば
祥の日暮れ方より降りいでし大地へ落ちて人々驚き
騒ぎていまだ引きもつかぬ時分なれば傳兵衛の庭の厚の上なる
志のびがたきことなれば拾の招ぎ九月終まで寄つ
めさせて置きたれども清吉おしいられて
人の肩をかりて来たる者あり立ちてこれに酒一升と鋭
のこと申されたれば主人の者とはしらで人々
ぶるまいどせいまいへとあれの者とはしらで人々
今宵の叶いがたきは日比さまざまあとにて療治をなす
べく又薬をとりてかれこれとこころづくしらるべく

かのつゝみをうつの竹をとりきたりて四ふの
医療をなすべくはかりこれを呑ませて
日々に恢復なれども此は十四五年を経て傷をとゞめ
ずしてさぞかの豪傑なれども中にも結ぶ
のうせがたき事なりしは

○芝三島町に菓子屋を業とする一軒をつくりたる
ものに欲至直
ものに日ごとに実に京の潰とあるに雪の人の
まことにうたがはしきものなれの者いでゝて商人を
いづれも同じ事にてあるべきと言ひ
ないうるわるくかくいつまでもとゝのへ
日がゝるまでと長のらく朝いとまを出申べきまでなる

[illegible]の年中
[illegible]業といふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○東江先生 名は鮮字は文龍 沢田文次郎氏に[illegible]八十餘歳[illegible]門人[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

諸君斜曲背　白馬橫雅車
已及戰場處　逃竄岡邱家

先生此詩を作るや大笑して曰此は先生の雷名四方に
轟き門下の士滿堂に滿て深筆を下すの者門下の士に市て
ふく張るの者此手紙を受て出るものゝ多し

○寶永五子年十二月悉意まの傳を蒐集して尚齒
會あり此時座主辛酉百二十七歩ゆく上座し初年と
ゝゝゝ

長生殿裏春秋富　不老門前日月遲　二行書

此詩を作りて出でゝ席を辭するや掛かりて足上席の者り古
實なりと此事官の位を勳功あり仕て辭し

ゝゝ侯爵にて唐土に三河業績とゝ[illegible]あ[illegible]ふの
話を聞めゝ異境を[illegible]はるの四千余年渺く九千余年
の昔細し都鄙と俳徊[illegible]て十年後武江大塚に
寄居て天正十壬午年駿河國に出生し寶永八辛卯
年齢百二十歳にて終生ゝ

假名世說下卷終

ソノ人ノ義ニ人ヲ人ヲ義ニ
ノ主アラ論衡ヨリ
善悪新廣ニ其事ナ
性ニ古人ノ人ニ是ト
ラン文筆ニ義ア
ヨリ道ヲ学ル者
ヲ者ニ道ヲ

無ラシ辯士則チ人義ト
論ズルノ文人別ニ遠ラトアル
ラ者文人辯士ヨリ
所ヲ論ズル人ヲ論ズル
亦是キノ影響ヲ説ラズ
我師冒先生ニ元以来四ヨリ
シル人物ヲ墓ル俗名世説

題しるす書まおのれあり
き材瑞昌寺のあるべきもとめて
めて拝して鐫んとすと乞て二十を先
生山しく師匠よりほりく筆
るるをよしておのれ二十をもつ
ぶふと補ってあれど元より書よ乏
しきをつぶ或い師の義より抄出

あるを支人よりもとめ記
憶しるすべきを書しるす
是と補じ「日」と補て以て
よりて系性遇す字旦いかれど
撰上不及又これ性よりおるんとて
珊瑚よりべを石屋らまべ

文宝寺三つ

杏花園蜀山先生著述目錄

南畝莠言　此書は先生数年の間考へられし和漢の古籍を広く引き古今の事実を考究せられし千古の考証とも云ふべきものなり

千紅萬紫　蜀山先生の狂詩狂文狂歌などをあつめたるものなり

同　二編　右編はもれたるを追ひて出板

杏園詩集　先生壮年より数十年の詩をあつめたる詩集のたぐひなり

同　續編　右集につゞき年々出板

假名世說後編　初編に漏れたるをあつめたる

江都書林　下谷御成道　青雲堂英文藏板

小學本註	二冊	增補文語碎金	二冊	八面鋒	四冊		
扶桑蒙求	三冊	宋名家詩選	二冊	晚唐百家絶句	五冊		
題画詩類鈔	二冊	香籤集	一冊	和歌題百絶	一冊		
三大家絶句	一冊	蜀山先生詩集	一冊	東征稿 西上記	二冊		
漫遊文草	五冊	昔々春秋	一冊	酒中趣	二冊		
左傳凡例考	一冊	左傳比事	一冊	歳華一枝	一冊		
歳華一枝拾遺	一冊	名乗字引	一冊	名乗字彙	一冊		
略註五經字引	一冊	篆書字引	一冊	易學小筌	一冊		
書家必用	一冊	書家錦嚢	一冊	書家便覽	一冊		

古韻通叶　一折
治痘要方補遺　一冊
疱瘡食物考　一折
種痘辨義　一冊
日養食鑑　一冊
世事百談　四冊
子昂真草千字文
蘭竹画譜　二冊

醫書之部
治痘論　一冊
痘疹戒草　三冊
治痘要訣　一冊
保嬰須知　二冊
雜書之部
翁問荅　四冊
瓦礫雜考　二冊
子昂龍興寺碑
竹沙小品　一帖

治痘要論　一冊
痘疹養生訣　一冊
續痘科辨要　三冊
方函　二冊
三省録　五冊
東江小倉百首　一冊
隷書醉翁亭記
光琳百圖　二冊

光琳百圖 後編　二冊
蕙齋略画　二冊
裝劔備考　一冊
自文家訓　一冊
校正乳方圖鑑　一冊
佛鬼軍 一休　一冊
善惡種蒔和讃
歌書之部
貫之集類題　二冊
千町拔穂　一冊

画圖撰要　三冊
刀劔圖考　一冊
鞍鐙圖式　一冊
田畑調法記　二冊
珍錢奇品圖録　一冊
三畏一心記　一冊
八部秡講釋　一冊
香川景樹集 桂の落葉　二冊
園圃拔菜　二冊

一蝶画譜　三冊
刀釼圖考 二篇　一冊
甲冑著用辨　二冊
百姓袋　一冊
古錢鑑　一冊
日蓮御一代記　一冊
暦日講釋　一冊
海野遊翁詠 柳園家集　二冊
萬葉用字格　一冊

霊能一貫　二冊
蜀山百首　一冊
俳諧之部
續故人五百題　二冊
新く五百題　二冊
近世五百題　二冊
過日庵撰
近世十家類題　二冊
十萬發句集　四冊
發句古今撰　二冊
俳諧寂栞　二冊

源氏物語系圖　一折
仮名類纂　一冊
掌中故人五百題　一冊
嘉永五百題　二冊
白雄坊五百題　二冊
名所千題集　三冊
乙二發句集　二冊
過日庵輯
蒼虬翁句集　二冊
饒舌録　二冊

手柄岡持狂歌狂文
系おそろ　二冊
竹村茂枝集
穂向屋集　三冊
新五百題　二冊
今人五百題　三篇四冊
過日庵撰
今人百家類題　二冊
題林發句集　四冊
曉臺七部集　二冊
今人發句集　二冊
過日庵撰
名家類題　四冊

一葉集　芭蕉翁一代集　五冊
俳諧四季草　四冊
風俗文選拾遺　二冊
梅澤先生手本向
千字文　一冊
御成敗式目　一冊
新三十六歌仙　一帖
續撰朗詠集　二冊
諸流手本向
同真名序　一帖

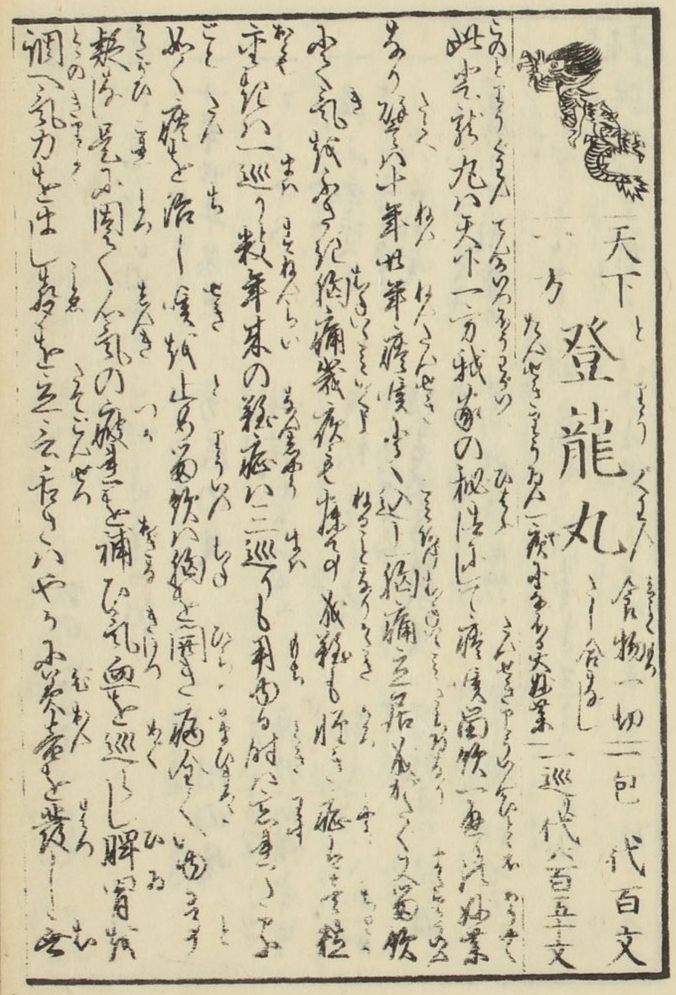
一葉集　後篇　翁之文消息　四冊
安政五百題　二冊

俳諧集草　十六冊
過日庵撰
類題金玉集　四冊

庭訓往来　一冊
消息詞　一冊
女今川　一冊
雪後帖　石摺　一帖
實語教童子教　一冊
尊朝瀟湘景　一冊

風月往来　一冊
庭梅帖　一冊
女雅俗要文　一冊
新撰詩歌合　一冊
大槁庭訓往来　一冊

大槁新年帖　一冊
蓮池堂法帖　一帖
雜書并繪入物之部
十返舍一九案文
諸國書狀指　一冊
繪本國恩俚談　一冊
米錢胸算用　一冊
十返舍一九作
附會案文　一冊
唐土名所の繪　一枚
花鶴百人一首　一冊
橘正敬庭訓　一冊
瀧本芳野道の記　一冊
教訓圖會前後　二冊
大學笑句　一冊
每朝神拜小言　一折
山東京傳作
滑稽文選　一冊
甲越勇士鑑前後　二冊
女大學玉文庫　一冊
正敬商賣往來　一冊
瀧本鴻書帖　一冊
皇朝三字經　一冊
裁縫早手引　一冊
式亭三馬作
小野馬鹿村　一冊
安見道中記　一冊
諸職雜形　一冊
女庭訓往來　一冊



病症今くるてす数方を用ひ試てもその効の奏するすの方多数
歴代不思議の妙業と申も尤ふるき此
一十年廿年間自
一からせき　一労症の虫　一引風の虫
一咽喉ぜつつき　一痰飲症状
一痰水血交て　一痰飲症状多
一小児白日虫　一動乳ひよく心神
一婦人産後の虫　一酒飲ふて絶痛
一酒飲ふて乳痛　一婦人産後の虫
一酒飲ふて絶痛　一痰水血交て
一酒飲ふて乳痛　一切ふし
婦人産後の業者より法の必要あり　故に
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

東叡山御用御書物所

江戸下谷御成道

青雲堂英文藏製